

【サンタクロースと与える愛】

牧師・熊谷徹

クリスマスになると必ず登場するのがサンタクロースである。わが家の子供達は小学5～6年生頃まで「サンクさんは本当にいる」と信じていたらしい。サンタクロースは空想上の人物であるが、その起源をたどって行くとニコラウスという実在の人物にたどり着く。

今から1700年ほど前、ニコラウスの両親が何がしかの財産を残して世を去った。残されたニコラウスは考えた；これを自分のためだけに使って良いものだろうか、神様と両親が喜んでくれることのために使うにはどうしたら良いのだろうか」と。そんな彼の心に響いて来だのが「神を愛し人を愛せよ」というキリストの教えである。キリストは、「受けるよりも与える方が幸いである」(使徒 20:35)と語り、「自分を愛するようにあなたの隣人を愛しなさい」(マタイ 19:19)と言った。ある日ニコラウスはあることを決意した。彼は日が暮れて薄暗くなるのを待って町に出て行き、貧しい人の家や病人のいる家にそっとお金を投げ入れた。やがて彼の行為は町の人々の噂となった。間もなく人々はそれを行っている人物の正体を知った。後の人々は彼のこの行為を後世に語り伝えた。人々は彼の名前に「セント(聖)」という称号を付けて「セント・ニコラウス」と呼んだ。その「セント・ニコラウス」が英語の「サンタクロース」となった。

この聖者伝説でニコラウスが行なったのは、キリストが教えた「愛の教え」の実践である。キリストは、人々を「愛し」、ご自身を「与える」ためにこの世にお生まれになった救い主である。キリストの生涯は「愛の生涯」であり、「与える」一生だった。悲しむ人に慰めを与え、絶望する人に希望を与えた。愛されない人に愛を与え、愛せない人には愛せる愛を与えた。キリストの生涯は「与える生涯」だった。与えて、与えて、与え抜いて、とうとう、ご自分の命までも与えてしまわれた。キリストは「人の子が来たのは、…多くの人の贖いの代価として自分の命を与えるためである」(マタイ 20:28)と言った。また「人がその友のために命を捨てるといふ、これよりも大きな愛は誰も持っていません」(ヨハネ 15:13)とも仰った。その言葉の通り、キリストは私達を愛し、私達の「贖いの代価」として十字架に命を捨てた。それ程までに私達を愛して下さった。そして私達に「与える愛」の尊さを教えて下さった。そのキリストのご降誕をお祝いするのがクリスマスである。

聖書はこう告げる；「神は、実に、そのひとり子を《お与えになった》ほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである」(ヨハネの福音書 3章 16節)。◇